

宇美町

エコトリコ

(2019年広報5月号)



初めての経験をすることがあったら『もの心がついて以来』と表現することはあります。この『もの心』がつく年齢は何歳くらいだと思われますか？

しかし、その子どもが自立してから

乳児期は、空腹やおむつ交換を泣いて知らせます。泣くのは乳児の意思伝達手段ですが、この要求の対応の仕方次第では乳児は、『自分は大切にされている、周りの人たちは自分を守ってくれているのだ』という他者信頼感が生まれ、育まれるといわれています。

現在成長期にある子供たちは、『人生百年』時代を生きることになるという心を育んでいなければ、将来不満だらけの人生を送ることになる

幼児期になると自己肯定感へと変化するのですが、古来より伝わる『三つ子の魂百まで』ということわざがあります。この頃に物を大切に扱うとか、勿体ないといった心を育むのは、保護者の大切な役目です。幼い頃は、人生という階段を高くまで登っておりませんので、広くかつ沢山の物が見えません。自分の周りの人たちから、思いや行いを学習しながら成長していきます。カウンセリングの技法のひとつに、『エコグラム』で知られる交流分析

があります。近代心理学に大きな影響を与えているフロイトは、『人は産道を通っていたときから記憶を有している』と残しています。私たちの思いや行いは、子供たちに確実に記憶されているのです。もの心つく前から：

『子どもを見れば親がわかる』と聞かれたことがあると思いますが、子どもが小さな頃は親が笑われて済みます。



文責 福岡県地球温暖化防止活動

推進員 竹吉 栄隆